

# アルミ 6月前半ウワ物<sup>※</sup>5円反発

(大阪) アルミスクラップ相場は反発する地合いになっている。メーカー各社と原料問屋による6月前半の値決め交渉が一巡し、ウワ物スクラップが1<sup>※</sup>あたり5円値上がりした。国内アルミ新塊価格が底堅く推移したほか、軽圧メーカーの値上げを考慮した対応とみられる。一方、スソ物は製品需要の低迷を映し上値が重く、横ばい中心となった。

主な品種の市中実勢価格(関西地区)は、新切アルミ1級が<sup>※</sup>260~270円、ビス付きサッシが207~217円、アルミ缶Aプレスは205~215円見当。

自動車生産の一部に持ち直しの動きが見られるものの、安価な輸入塊の流入で合金各社の受注販売は回復力に乏しい状況が継続。スクラップの調達意欲も全体的に盛り上がりを欠いたままだが、直近は原料在庫に不足感が目立ち始めている様子だ。

そのため、前半の交渉ではウワ物スクラップに対し先行手当てや安値修正の動きが広がり、2月前半以来の上昇局面となった。ある問屋筋は「市中の発生薄は非常に深刻で一部のメーカーは原料在庫の不足感を強

めている。絶対数量の確保に向け、目先はスソ物に対しても修正値上げを余儀なくされるのでは」と指摘。後半に向けても強気寄りの見方が優勢だ。

また、ビス付きサッシや使用済みアルミ缶(UBC)は集荷競合の過熱感を背景に市中の取引価格が上昇。メーカーによっては個別での上乗せ対応や安値修正の動きが台頭し、5円がた切り上がった。

直近のLMEアルミ価格は2,400<sup>ドル</sup>台で推移。上伸力を欠くものの、底堅い値動きで推移している。

| LME相場、他(現地5日) |           |           |         |        |           |
|---------------|-----------|-----------|---------|--------|-----------|
|               | 5日前場      | 前日比(ドル/t) | 在庫量     | 前日比    | 前月平均      |
| 銅             | 9,834.00  | 160.50    | 13,800  | -3,350 | 9,529.78  |
| 鉛             | 1,965.00  | 0.00      | 282,650 | 1,100  | 1,958.28  |
| 亜鉛            | 2,655.00  | -24.00    | 137,150 | 875    | 2,646.15  |
| アルミ           | 2,472.50  | -0.50     | 365,850 | -2,025 | 2,442.40  |
| ニッケル          | 15,285.00 | 5.00      | 200,724 | -900   | 15,324.75 |
| 錫             | 32,000.00 | 40.00     | 2,445   | -160   | 32,143.50 |
| 金(NY)         | 3,375.10  | -24.10    | -       | -      | 3,290.71  |
| 原油(NY)        | 63.37     | 0.52      | -       | -      | 60.94     |
| 為替TTS(ドル/円)   | 144.76    | 1.03      | -       | -      | 145.75    |

※金は1troy ounceあたり※原油は1バレルあたりの25年7月限※為替は日本時間6月6日のTTS

## アルミ合金生産3カ月連続減 4月5万3千<sup>トン</sup>

アルミスクラップの主な需要先、アルミ合金の生産が3カ月連続で前年実績を下回った。日本アルミニウム合金協会がこのほど発表したアルミ二次地金・同合金地金等生産実績によると、4月の生産量は前月比9.9%減、前年同月比6.2%減の5万3788<sup>トン</sup>だった。

自動車生産は持ち直しつつある中だが、ダイカスト向けの需要は本格的な回復には至らない状況。人手不足などによる住宅着工件数の減少も影響を及ぼし、合金各社の生産動向は振るわなかった。全体量は昨年11月以降5カ月連続の6万<sup>トン</sup>割れとなった。

## 6月の銅・アルミスクラップ市況見通し

関西非鉄リサイクル協同組合 橋本健一郎理事長(橋本アルミ取締役)



LME銅価格については、供給面ではチリやペルーの鉱山で労働争議や水不足が継続するうえ、需要面では中国が5兆元規模の景気刺激策(25年5月発表)によりインフラ用銅需要が6月に本格化する可能性と、中国国家備蓄局(SRB)の買い戻し観測もあり、強い現物需要が相場を支えると見ている。

LMEアルミ価格については、供給側の制約が価格を支える半面、世界経済の減速懸念や貿易摩擦が価格の上昇を抑制する可能性がある。また、米国のアルミ輸入関税が市場に不確実性をもたらしている。

為替は短期的には円安圧力が強まる可能性があるが、中長期的にはドル安・円高方向への動きも想定。それ

らを踏まえ、6月のLME銅価格(セツルメント)は9,400~1万200<sup>ドル</sup>のレンジで、銅建値は136~155万円程度と予想。LMEアルミ価格は2,450~2,600<sup>ドル</sup>のレンジで、スクラップ購入価格(前月最終価格より)は据え置きから10円上げを予想。為替は1<sup>ドル</sup>=141~148円台(1カ月間TTM)程度を想定している。

銅スクラップの景況感については、需要は弱いままだが、市中スクラップの流動性は悪化傾向にある。一部の業者では価格下落を警戒して、買い渋り・売り渋りの両極端が進行している。アルミスクラップは自動車・建設向けの需要が弱く、メーカー各社はスクラップからの再生インゴット需要が伸び悩んでいる。夏場は工場の稼働調整などで、短期的に買い控えが強まる可能性があり、スクラップの需要は引き続き低調だ。